

## ■三宮周辺地区におけるまちづくりの目標と方針（案）

〔三宮周辺地区のまちづくりの目標〕

目標

ひと中心の神戸らしい快適で魅力・活力にあふれる玄関口への再生  
ヒューマンスケールのまち、神戸の都心を感じられるまち

〔実現するための5つの方針〕

### 方針1 歩行者にやさしいまちづくりの推進（ひとが歩いて楽しいまち）

- ①誰もが歩きたくなるまち：回遊性の向上、快適な歩行者空間の創出
- ・自動車交通の分散化を図り、駅を中心にまちのシンボルとなる歩行者優先の空間を整備
  - ・お年寄りから子どもまで誰もが歩きたくなる快適で安全なバリアフリー動線を整備、総合的な駐輪対策
  - ・3層歩行者ネットワークを縦方向につなぐまちに開かれた縦動線（EV、エスカレーター等）の整備（※）
  - ・路線、区間の特性に応じた歩行者、自転車、自動車を組み合わせた、高質な道路空間を整備

- ②居心地のいい空間が点在するまち：憩い・たまり空間、休憩スペースの創出
- ・三宮中心部から周辺エリアへ拡がる主要歩行者ネットワーク沿道には休憩スペースやたまり空間を整備
  - ・まちに開かれた人々が憩い・溜まれるパブリックスペースを整備（※）

- ③いざという時も安全安心なまち：地域防災にも寄与する空間整備、災害に強いまちづくりの推進
- ・視認性が高く、わかりやすいオープンスペース（一時避難場所）、縦動線の整備
  - ・災害対応を見据えて防災備蓄倉庫および非常用電力を整備する（災害時には1階を開放）（※）

### 方針2 “「駅」＝まち” わかりやすい交通拠点の充実（ひとが集まる“「駅」＝まち”空間）

- ①乗り換え利便性の向上：“「駅」＝まち”によるわかりやすい乗り換え動線整備
- ・乗り換え動線の視認性の向上、行先がすぐに把握できる見通しのよい駅空間の整備
  - ・バリアフリー整備の推進、わかりやすく統一された情報案内サイン整備（※）
  - ・自転車駐車場の総合的な整備、コミュニティサイクルなど自転車利用の利便性向上（※）

- ②交通結節機能の強化：“「駅」＝まち”によるバス乗降所の再編・集約化
- ・分散したバス乗降所の再編・集約整備
  - ・新しい交通の導入検討

- ③神戸の玄関口としての拠点形成：“「駅」＝まち”による他都市にはない駅前空間形成
- ・6つの駅（JR、阪急、阪神、地下鉄西神・山手線、海岸線、ポートライナー）を一体的な「駅」として捉えた三宮にしかない駅前空間の創出（※）
  - ・JR駅前広場（北口、南口）の再整備、タクシー・一般車の乗降所の再整備
  - ・官民連携して一つの駅としての一体的な空間整備を推進（※）

### 方針3 神戸の魅力をアピールする多様な都市機能の集積（ひとを誘う個性的なまち）

- ①神戸の拠点となり三宮周辺地区を牽引する駅中心エリア：駅前に相応しい都市機能の更新
- ・神戸を代表する三宮周辺地区の玄関口としての交通結節および賑わい形成

- ②神戸の魅力をアピール個性ある周辺エリア
- ・駅を中心とした特色あるまち活かしたまちづくり

- ③社会・経済の変化に柔軟に対応できるような流動性のあるまちの実現
- ・変化に対応できるフレキシビリティの高いまちづくりの実現（スケルトンインフィル※1による転用しやすい建物、リノベーションなどによる既存施設の有効活用など）

※1)スケルトンインフィル：耐久性の高いスケルトン（構造躯体）と、ライフスタイルの変化に応じて容易にリニューアルできるインフィル（設備・内装など）を明確に分け、時代の変化に対応できる社会的に長持ちできるような建築方法

### 方針4 市民が愛着や誇りをもてる神戸らしい景観形成（ひとが海・山を感じ、歴史をつなぐまち）

- ①デザイン都市神戸の魅力発信としての景観づくり
- ・景観形成ガイドライン等による神戸の玄関口としてふさわしい象徴的な空間を創出（近景の統一感およびにぎわいの創出および遠景のスカイライン形成）
  - ・三宮の第一印象に相応しい「駅」と一体的な高質な景観を生み出すデザイン誘導（※）

- ②海や山などの自然および歴史・文化など神戸らしさを体感できる景観づくり
- ・北野や旧居留地などの神戸らしいエリアまでのつながる沿道景観のデザイン誘導
  - ・海と山を感じられる眺望スポットの確保

- ③神戸ならではの美しい夜間景観の創出
- ・遠景（海、山からの見え）、近景（歩行者が歩いて楽しい沿道景観）に配慮した夜間景観形成
  - ・季節イベントと連動して三宮周辺地区全体で取り組む神戸らしい夜間景観の創出

（※）：特に拠点形成エリアで重点的に取り組むべき内容

### 方針5 持続的なまちづくりを支える仕組み・体制の構築（ひとが支え、まもり育てるまち）

- ①エリアマネジメント協議会の立ち上げと官民で協働するまちづくりの推進
- ・官民連携して議論を行える場の構築、BID※2などまちづくりを支える資金確保の仕組みの構築やまちづくりの担い手となる若い人材育成
  - ・オープンスペースの一体的な利活用によるまちの活性化の推進

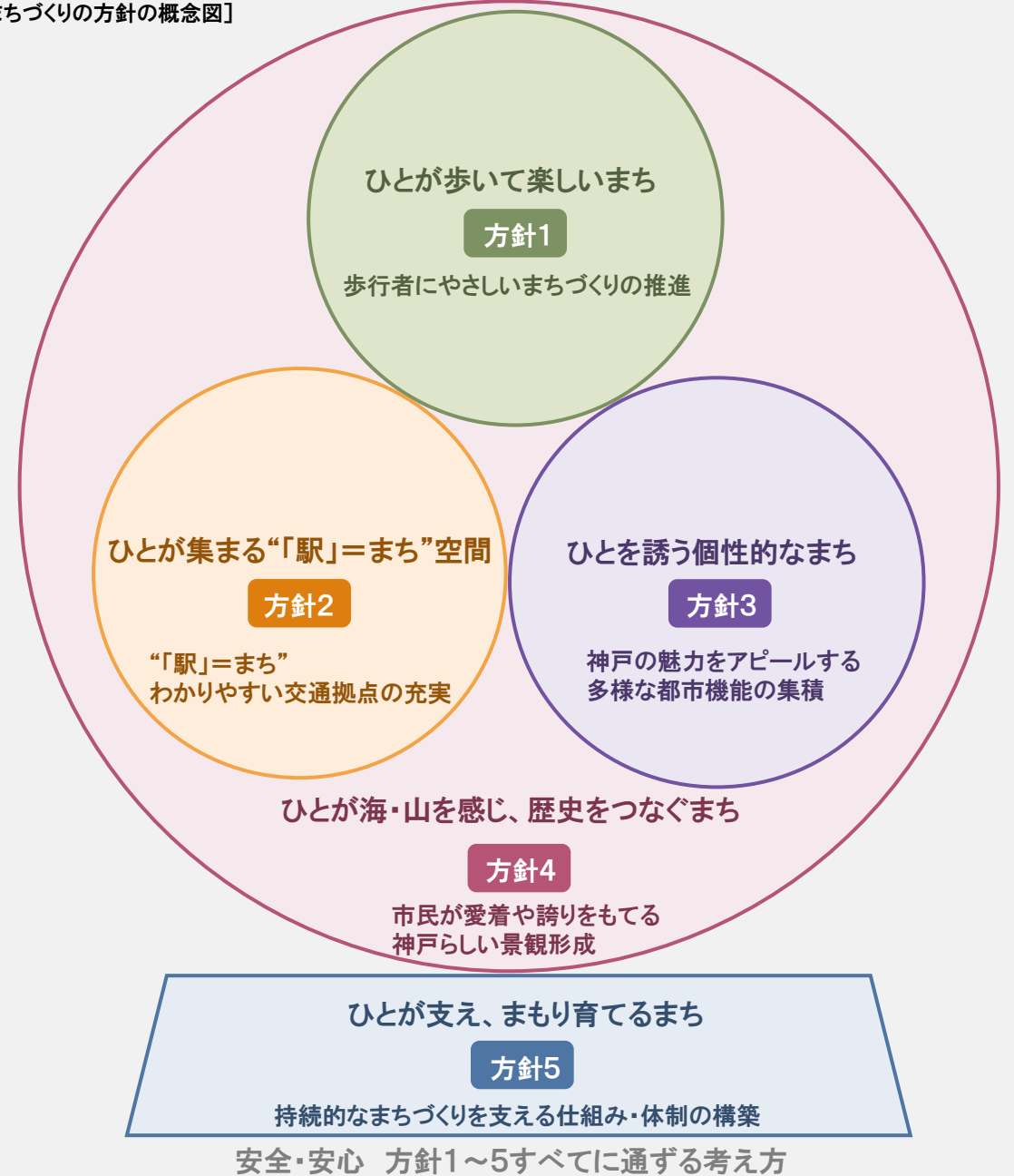
- ②エリアマネジメントによる低炭素まちづくりやエリア防災への取組み
- ・未利用エネルギーの活用など含めた三宮周辺地区での一体的なスマートシティ化などの検討
  - ・エリアBCP（災害時の事業継続を目的とする防災計画）を視野に入れた事業者の相互協力のもとでのエリア防災の推進

- ③KOBEブランド※3を国内外に広報・PRする取組みの強化
- ・神戸の魅力を発信し、国内外にKOBEブランドのファンを増やすとともに来街者の増加につなげる

※2)Business Improvement District：米国で始まった制度であり、地区内の資産所有者に対して一定の税負担を課して資金調達を行い、それを原資に地区の価値を高める幅広いサービスを行う仕組み、サービス内容（公共空間の清掃やイベント開催、観光客へのガイド、空室ビルテナント募集など）はあらかじめ合意される

※3)ファッション、スイーツ、食、歴史、文化、など神戸が誇る他都市にアピールできるもの、魅力

〔まちづくりの方針の概念図〕



# [三宮周辺地区のまちづくりイメージ]

